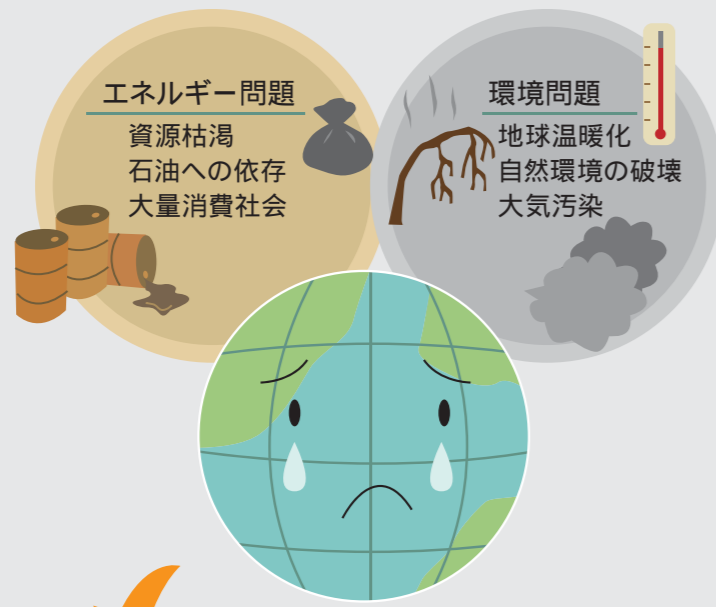
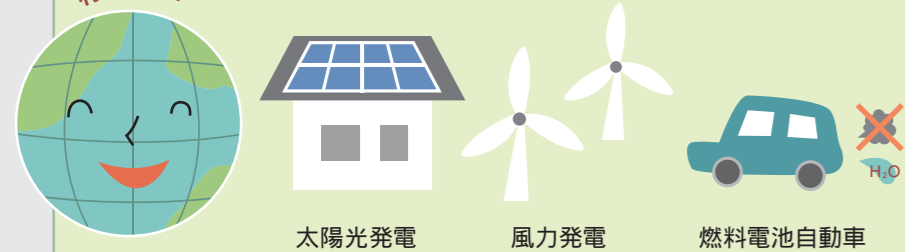


『新エネルギー』は、エネルギー問題と環境問題を同時に解決します!!

私 たちは、エネルギーを大量に消費して、暮らしています。今、化石燃料の資源枯渇などによる「エネルギー問題」と地球温暖化をもたらす様々な「環境問題」の2つの大きな問題を抱えています。「新エネルギー」は、どこにでもあって、使ってもなくならないだけでなく、地球や身の回りの環境を損なわないエネルギーなので、私たちの生活や地球の環境を守ってくれます。世界各国でこの「新エネルギー」の導入に向けたいろいろな取り組みが進められています。



わーい! 『新エネルギー』は、こんなところで活用されています



バイオマスエネルギー
太陽熱利用
中小水力発電
地熱利用
温度差エネルギー
などが「新エネルギー」です。

池田市地域新エネルギービジョン(平成19年度策定)

環境目標像
化石エネルギーの削減
自然エネルギーを取り入れて、化石エネルギー消費量を半減するまちをめざそう

目標
新エネルギーと省エネルギーの相乗効果で2030年の化石エネルギー消費を半減させる(1999年比)

池田市では、太陽光発電や木質バイオマスエネルギーなどの利用可能性が多くなっています。しかし、経済性の面での制約から、新エネルギーを家庭レベルで導入するのは難しいのが現状です。

そこで、協働による「新エネルギーの普及」のしくみづくりを進めます。

池田市のバイオマスボイラ導入プロジェクト

導入モデルの検討

バイオマスボイラの導入にあたっては、全国のバイオマスエネルギーの動向や先進事例調査、本市の特性をふまえ、検討しました。

- 利用可能量** 植木産業が盛んであり、多くの剪定枝が発生。市内のチップ化事業者が年間約1万tの剪定枝をチップ化しており、無料で利用可能とのこと。
- 熱需要量** 五月山都市緑化植物園温室の灯油ボイラが老朽化してきており、耐用年数を超えている。ハイキングなど多くの利用者がおり、足湯などを併せて整備することで高い啓発効果が期待できる。

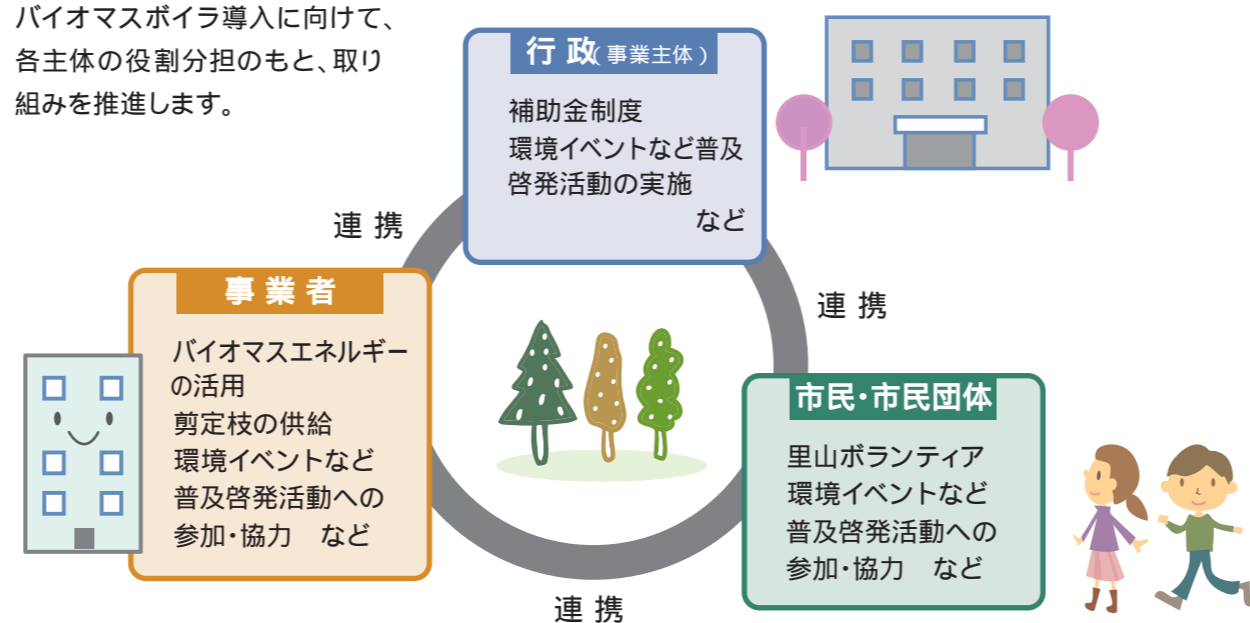
五月山都市緑化植物園温室へのチップボイラの導入

導入スケジュール

	短期(H21~H23)	中期(H24~H26)	長期(H27~)
五月山都市緑化植物園温室へのチップボイラの導入		導入	
		ボイラ設備更新時期にあわせ、チップボイラの導入を検討	
		五月山公園内や市の環境イベントに足湯を設置	
		里山ボランティア団体等と連携した、バイオマスエネルギー利用の拡大	

推進体制

バイオマスボイラ導入に向けて、各主体の役割分担のもと、取り組みを推進します。



新エネルギーで 環境にやさしいまち・いけだ

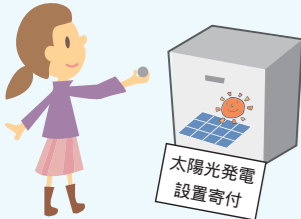
~ 最初の一步を ~



3つのモデルを連動させながら取り組みを進めよう — みんなで「最初の一步」を踏み出そう！

1. 早期の導入をめざした寄付型モデル

市民や事業者の皆様からの寄付により太陽光発電を導入するモデルです。



多くの市民の目にふれる駅前広場や市役所などへの設置を検討。

特徴や課題

全国的に寄付による設置例が多く、企業にとってもCSR活動の一環として参加しやすいモデルとなります。

多くの市民・企業からの協力が得られれば、大規模な設備容量のものが期待できます。

継続的な寄付協力が無い限り、2基目以降の導入は難しく、市民・事業者等へのインセンティブやPRが鍵となります。

【どうやって寄付を集めるの?】

市で実施している環境イベントなどで「ワンコイン募金」を実施します。

事業者からの寄付に対し、協賛企業としてPRするなど、寄付のインセンティブを検討します。

2. リユース活動やイベントと連携した地域協働型モデル

リユースショップやバザー等の収益を活用し、太陽光発電を導入するモデルです。



リユースショップの開設やバザーの開催。

特徴や課題

不用になった衣類等の提供、バザーの開催支援等、市民にとってお金の負担がなく気軽に参加しやすいモデルとなります。

保育園、幼稚園、小・中学校等への導入を目的とすることで、児童・生徒が身近に太陽光発電を体感することができ、新エネルギーの普及啓発につながります。

リユース品の販売収益だけでは、太陽光発電所の設置に時間がかかります。

【どうやって回収するの?】

市で実施の使用済み天ぷら油の回収と併せて、不用になった衣類等の回収を実施します。

【どこで売の?】

リユースショップを開設し販売します。また、学校園等でのバザーの開催時に使用します。

3. 地域通貨と連携した地域活性型モデル

「地域通貨」の活用により太陽光発電を導入するモデルです。

地域通貨とは、ある特定の地域でお金の代わりに使うことができる通貨のことです。



(例)1,000円で1,100円分の地域通貨と交換できる。ちょっぴりお得。

特徴や課題

地域通貨の使途拡大が地元商店街・市街地の経済を活性化し、地産地消を実現できます。

地域通貨に対する市民・加盟店舗への理解が必要となり、浸透するまで時間がかかります。

【どうやって使うの?】

「地域通貨加盟店」で買物代金の一部として利用できます。

【どこで買うの?】

「地域通貨加盟店」で購入できます。



	短期 (H21~H23)	中期 (H24~H26)	長期 (H27~)
導入スケジュール			
早期の導入をめざした寄付型モデル	<ul style="list-style-type: none"> 企業からの寄付募集: 広告塔の設置や広報への宣伝など企業へのインセンティブを与える事で継続的に寄付を募る。 市民参加型イベントの開催: イベント参加率の向上に向け、市民・企業に対しフリーペーパー等で情報発信を行う。 		
リユース活動やイベントと連携した地域協働型モデル	<ul style="list-style-type: none"> リユースショップの設置・運営開始: 運営・管理を事業主体に一極化せず、市民、事業者、行政支援のもと、負担・人件費の削減につなげていく。 リユース品の回収: 使用済み天ぷら油の回収と同時に不用になった衣類等の回収を行うことで、リユース品を継続的に確保する。 バザーの開催: バザー収益は学校園等への太陽光発電システム設置費にすることで、職員、PTAの方からの協力が期待でき、継続的に実施できる。 		
地域通貨と連携した地域活性型モデル	<ul style="list-style-type: none"> 地域通貨の取り組み支援体制の強化と運営準備 10店舗ほどから実施 試験的運用 環境フリーペーパーの発行 	<ul style="list-style-type: none"> 各モデルの導入における環境意識の向上 効果の検証 事業拡大に向け、市民・企業に対しフリーペーパー等で情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業拡大
設置目標	2つのモデルで10kW以上の規模をめざす		3つのモデルを連動させ継続的な設置を進める

